

《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2018年3月号》

なぜ私が、サラリーマン始めすべての人達に 「武士道の7つの徳目」の大切さを説くのか？

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

【はじめに】

今や『格差社会』が生まれ、若者を中心に、将来に夢を持ってない、やる気のないニート等、いわば『下流層』が増大しています。

そして、お金中心、個人主義の文化の浸透によって日本人の精神は劣化しています。この様な世情の折り、私は強く武士道精神の復活を唱えます。

私は46年もの間、伝統的な武道、空手、棒術、剣術等を稽古してきました。

以下の3枚の写真は、私がお世話になった尊敬して止まないお師匠さん達です。



我が流派日本空手道松濤会
の創始者船越義珍先生



大学時代の空手の監督、船越
先生の一番弟子だった
広西元信先生



社会人時代の空手の監督
杉本文人師範

しかし、私の武道仲間でさえ、武士道なんて言葉を持ち出すと引いてしまいます。武道の世界にいる人達でさえ、武士道ばなれというか・・・、その素晴らしさを理解できずにその本質を意識していないのです。

武道もスポーツも区別がつかないでいるのです。そこが、欧米偏向化というか・・・、勝ち負け、損得の文化に毒された証拠なのです。

では、武士道にはどのような価値があるのでしょうか？

日本人の根底に流れる武士道という美しい生き方の7つの徳目（Value）は、私達がこれを見直して血肉化すれば、間違いなく成功人生を掴めるという事をお話したいのです。そう！ 成功哲学として、また幸福の引き寄せの法則として武士道を見直して頂きたいのです。

なぜかと言えば、サラリーマンとして成功し、部長や役員や社長をしているような人達は、それなりの人望があり、多かれ少なかれ武士道の7つの徳目を血肉化しているのです。



さて、明治維新は、他でもない、武士道の発揮によって成し遂げられました。それ以降、武士という階級は廃止されましたが、国民全体の道徳として根付きました。第二次大戦の敗戦後、確かに失われつつありますが、しかし今なお日本精神の精華として、そして日本人の生きる精神的バックボーンになっています。

武士道の7つの Principle、これが武士道の要(かなめ)をなすものです。

Seven moral code of Samurai

- 1、仁 Jin (Love and Sympathy)
- 2、義 Gi (Truth and Justice)
- 3 礼、Rei (Courtesty)
- 4、智 Chi (Wisdom)
- 5、信 Shin (Faith)

6、忠 Chu (Loyalty)

7 誠、Sei (Promise)

この7つの徳目は、日本人の行動原理として大切にされてきましたが・・・、明治維新以降、効率・効果を求める文化に毒され、更に第二次大戦の後のアメリカの日本弱体化政策の一環として故意に潰されてきたものです。

【GHQ の占領政策と日本武道】

さて、日本が大東亜戦争(戦後は「太平洋戦争」の名で教育されてきましたが)に敗れて、戦勝国アメリカ GHQ の政策によって、日本の伝統古流武術は無論のこと、柔道、空手、剣道など、スポーツ武道に至るまで全面的に厳しく禁止された時期がありました。

GHQ とは、ご存知の通り General Head-quarters、連合国総司令部のことであり、ポツダム宣言では「連合国占領軍」と表現されています。そのGHQ が考えた日本占領政策は、いわゆる「3R・5D・3S」というもので、その内容は以下のような、「愚民政策」と呼ぶべき、怖ろしいものでした。

< 3R >

Revenge (白人にタテ突いた国、日本への復讐と報復を行う)

Reform (日本をアメリカにとって都合の良い国となるように改造する)

Revive (日本をアメリカの属国として復活させる)

< 5D >

Disarmament (武装を解除させる)

Demilitarization (非軍国化にする)

Decentralization (財閥を解体する)

Democracy (民主化を進める)

Deindustrialization (非工業化を行う)

< 3S >

Sports (日本武道を禁止し、西洋のスポーツを奨励する)

Sex (性を開放し、淫らな風潮を促進して日本国民の精神を墮落させる)

Screen (凡俗な TV 番組や映画を横行させ、アメリカ映画を娯楽産業として振興する)

果たしてこれを知る日本人は現代にどれほど存在するのでしょうか。

日本の戦後が、このようにして造られてきたのだと思うと愕然とします。しかし、1,000年にも及ぶ文化がそう簡単に潰されるものではありません。今やこの7つを思い起こして、日々の生活の行動原理にしている人は少なくありません。

今海外では、武士道が大変評価されています。
欧米の騎士道と全く同じレベルの、リーダー的人々の生きる指針だからです。
その武士道の徳目を復興させ、サラリーマンの行動指針として生かして頂きたいと思い、一社会教育者として、広めてゆくのが私のこれからの20年の夢です。

自分さえよければ良い、儲かりさえすれば良いと言う、守銭奴的 Money-Oriented の行動原理では成功できない。

武士道は、仏教・儒教・神道が合体し熟成された日本古来の道徳や宗教の様なものです。何かしらの生きる拠り所になる根本原理が無いという事は『根無し草』と同じです。

戦後の日本は、他の国と違って、無宗教者を文化人と思い込む困った国になってしまいました。欧米に行く、まともな家庭ではキリスト教やイスラム教にもとづいた家庭教育が行われているし、サラリーマンの行動原理としても宗教が大きな役割を担っています。そんな行動原理がぶっ飛んでしまっているこの日本をなんとかせにゃーならんと思っています。

【 武士道の7つの徳目を簡単に説明します。】

Seven moral code of Samurai

1、仁 Jin (Love and Sympathy) とは？

侍の時代には、他社への思いやり、寛容、同情、哀れみという意味がありました。『武士の情け』という言葉があるが、熾烈な戦場の中ですら敵を思いやる気持ちを持ちあわせるのが本当の武士でした。

現代のサラリーマン社会にあっては、人の上に立つ人の条件で、リーダーシップの根幹をなすものです。

徳を持って権力を行使する。
能力に劣るできない部下をも、簡単に切り捨てるのではなく、教育したり、得意な部分を見つけて必要なら適所に移してあげる。

そのような部下にとっては、兄貴や親父に求める様な器が問われる徳目です。

部下は育てなければ育たない。

部下を育成する事は、会社にとっては財産を増やすのと一緒にのですから、会社に尽くしている事になります。

2、義 Gi (Truth and Justice) とは？

侍の時代には、例え戦いに勝ったとしても不正な行為をして勝った者は賞賛されなかった。打算や損得を離れた人としての正しい行い『フェア・プレイの精神』が尊ばれた。現代のサラリーマン社会にあつては、義とは、正しい決断力の事です。

過去に在り得なかった高視聴率を記録したテレビドラマ『半沢直樹』では、正にこの義をテーマにしていました。

裏取引や不正でのし上って行った会社役員に対して、次長職の半沢直樹が勇気を持って戦う姿に、日本中の視聴者が燃えたのです。

平成の記録破り、40%を超える高視聴率になったのです。

その事は、今でも侍の時代と同じく、不正でのし上る輩には10倍返しの怒りの鉄槌をお見舞いしたくなるのが日本人の心なのです。

義の根幹をなすものは勇(勇氣)です。

『義を見てせざるは、勇無きなり』とは、人として行うべき正義と知りながらそれをしないことは、勇気が無いのと同じことである。

周りに賞賛される骨のあるサラリーマンになる為には、義を行使できる勇氣や男気(女気もしかり)を身に付ける事である。

3、礼 Rei (Courtesty) とは？

侍の時代には、思いやりの心を目に見える形で、しかも心を込めて表現することが求められ現代のサラリーマン社会にあつては、上司にも部下にも仲間にも自分れました。

うわべだけの挨拶は、日本では慇懃(いんぎん)無礼と見なされ礼節を逸した所作と見なされました。から率先して挨拶をする事です。

それは人に対する思いやりの心と、人というものが敵に回すといかに面倒くさいかを悟っているから出来るのです。

礼は、戦国時代の戦場での合言葉から生まれたものです。

『合言葉』をし忘れたり、間違っ言ってしまうと、その場で命を落としかねなかったのです。生死のぎりぎりの場から生まれた作法が挨拶なのです。

そして礼は、コミュニケーションの基本です。

たとえ正しい事でも、取り手の気分を害するような事は言わない。

そして、相手が間違っている、時には見て見ぬ振りをしてあげる、そのような惻隱の情があれば、部下や上司や大衆の心を掴むことが出来るのです。

そして一番重要な事なのですが・・・、優雅な作法は、自分自身の強い心を涵養するのです。しっかり礼が出来るようになるという事は、人間がより大きくなってゆくという事なのです。『稔ほど頭を垂れる稲穂かな・・・』という言葉が、侍の時代から、もちろん今でも大切にされています。

4、智 Chi (Wisdom) とは？

侍の時代も現代も本質的には全く変わらないのですが・・・、物事の本質を正しく見極め、優れた知恵を働かせ、より良い方法を選択する能力が求められました。現代のサラリーマン社会にあっては、学びの人生を送る人が、会社を成功に導き、ご自身も出世します。

今日よりは明日、明日よりは明後日と日々改善に心掛ける。
日々の活動をルーチンワークの中に埋没させない。
その様なナレッジ・ワーカー(学びが好きなサラリーマン)が個人にそして会社に改善をもたらします。

そしてコミュニケーションの輪を紡ぐことによって、チームワークの成果をゲットし、時には新たな革新(ブレイクスルー)が生まれるのです。

5、信 Shin (Faith) とは？

侍の時代には、信とは理屈抜きに心情的に信ずることだった。そして、信じられたらその信頼に応えなければならなかった。
わが国は、欧米の様な契約社会ではなかった。
紙に書かれた契約よりも『口約束』の方が重んじられた。
だから一旦口から出した口約束には命がかかっていたのです。

現代のサラリーマン社会では、信とは、嘘を言わないそして約束を守ることです。信頼関係があれば、人と人の繋がり、単なる能力の足し算ではなく掛け算になります。シナジー効果が出て、予想もできないような大きなプロジェクトを成功させることが出来るのです。

6、忠 Chu (Loyalty) とは？

侍の時代には、主君に真心から仕えると言う意味がありました。主君への自発的な忠義心であり、他からの強制で遂行されるものではなかった。

また、夫婦間での忠は、互いの一途な愛でもありました。

しかし古来の武士道が大きく誤解されているのはこの忠という徳目です。忠とは、ただ単に上の者や社長にかしずき、盲目に従えと言う事ではありません。気まぐれや不条理の犠牲になるなら、主君を見限り、そして捨てよと言っています。すなわち、現代のサラリーマン社会にあっては、ただ上司や会社に盲目に忠誠を尽くせという事ではないのです。

無能であったり、コンプライアンスに触れるような不条理を押し付ける上司や会社は見限って転職すれば好いのです。

戦国期の武士は、主人をどれだけ替えても非難されなかったという記録があります。秀吉が羽柴姓を名乗っていた時、家中の武将が退散して他家へ仕えたいと申し出ると快く受け入れ、翌朝、館(やかた)に呼びつけて、自分で茶をたててもてなした上で言った。

『いずれへ参るとも、思わしくなくばまた帰って参れ、いつにても召し抱えてつかわすでや・・・』

他家へ仕えた侍が、居心地が良くないので秀吉のもとに戻ってくると、前言のとおり以前と変わらない扶持を与え、元の様に召し使ったと言うのです。

彼らには、『武士は二君に見(まみ)えず』という委縮した考えはなかったのです。しかし、一旦部下としての契約を結んだなら、全身全霊を打ち込んで業務にあたったのが戦国の武士だったのです。

7、誠 Sei(Promise)とは？

侍の時代にあっては、ひとたび承諾した事には、命懸けでその言葉(約束)を守り、もし言行不一致の場合には、死を持って償ったのです。

誠とは、言+成=言った事を成すという意味です。

正に、この二つの字が誠を形作っているのです。

サラリーマン人生の中で、正直を貫くと損をしたり出世しない事が往往にしてあります。しかし、長い目で見ると・・・、正直は割に合わないどころか『最善の儲け策』と言えるのです。個人はもとより組織としてもこの事は言えます。

商品表示に合わない、いい加減な商品を消費者に渡せば、遠からずそのようなメーカーからはお客が離れます。

多くの成功している会社の掲げるビジョンを見ると、このことが良く分かります。誠の心が盛り込まれているビジョンを持っている企業は、何百年も繁盛しています。誠とは『実益のある徳行』なのです。

【 さいごに】

武道の根源は、如何にすれば仲良くできるか、いかにして相殺(相打ち)を乗り越えて、互いに Win-Win の関係を構築できるかにあります。『闘いを乗り越えて共に相和す』、その為にはどのようなコミュニケーションをとれば良いのだろうか？

実は、日本人が延々と引き継ぎ育ててきた武士道精神は、心ある多くの人達の生き方の根幹になっているのです。

但し、いい加減に他人の禪で相撲を取っているずるい人は別です。彼が為に自分を殺して、押し忍ぶ『押忍』の精神を持った人達です。

皆様は、トヨタ自動車の社員は肩書きが上がるほど、礼のお辞儀が深いという事をご存知ですか？一般の社員の礼が5度の会釈程度なら、部・課長クラスの肩書を持つようになると、15度の敬礼になるのです。

役員や社長クラスでは、45度の最敬礼をする人がおられると言われています。この事は、かつての社長、奥田氏の秘書を勤められた私の友人から直接聞いた話ですから嘘ではないでしょう。

トヨタやパナソニックやキャノンの様な日本の伝統的な一流企業には、『稔(みのる)ほど頭を垂れる稲穂かな・・・』という格言が体現されているのです。それは偉くなった人ほど頭を低くせよという事なのです。

一般幹部社員が7-800万円なのに、社長が8億も10億も稼いでいる欧米企業とは違います。社長が、100倍も年収をとるという事は馬鹿げていると思いませんか？でも、伝統的な企業の日本人サラリーマンは違うのです。

その違いは何かと言えば、『お金の為に働いているのではない』という事です。仕事という共通の『行』を為す事によって、互いの成長を促進し合っているのです。

その『行:ぎょう』は人間を高めるための『人生修業』なのです。

心ある日本のサラリーマンの仕事は、金稼ぎの『Give-and-Take』の所業ではないのです。それは、働く人の心の根幹に・・・、人を楽にさせて喜びを与える、その喜びの反響で自分も喜ぶと言う、『他が為に生きる』という侍の心があるのです。



今の私の空手の稽古仲間です。

こんな本を出版しています。



最後までお読みいただき有難うございました。

おわり